

兵庫・明石城武家屋敷跡

あかしじょう ぶけ やしき

の屋敷跡である。

- | | | |
|---|---------------|-----------------------------|
| 1 | 所在地 | 兵庫県明石市東仲ノ町 |
| 2 | 調査期間 | 第五九次調査 一九九七年（平9）10月～1998年3月 |
| 3 | 発掘機関 | 明石市教育委員会 |
| 4 | 調査担当者 | 船越重伸・渡辺昇 |
| 5 | 遺跡の種類 | 城下町跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 江戸時代 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | |



（明石・須磨）

明石城跡は、江戸時代になつて小笠原忠政（眞）によつて築かれた明石藩の城郭で、それに伴つて城下町の建設も進められた。

今回の調査は、再開発事業に伴うもので、東仲ノ町地区第四次調査にあたる。

調査地は、城下町のうち、武家屋敷の南東部分に相当する地域で、中・下級武士

の屋敷跡である。
調査の結果、江戸時代全般にわたる遺構を検出した。木簡は、江戸時代末の廃棄土坑SX-100-14・SX-100-64から一点ずつ、計二点出土した。いずれも多量の陶磁器類・瓦などとともに出土している。なお廃棄土坑SX-1-100-4からは、「吉田」と墨・膠で記された土器も出土している。焼き継ぎ屋が土器を補修する際、取り違えを防ぐために、その土器の所有者を明記したものであろう。文久年間の絵図によると、調査地点に相当する位置にある屋敷の家名は「吉田」であり、これと一致することが注目される。今回出土の土器は、絵図の正当性を裏付ける資料といえよう。

8 木簡の釈文・内容

SX-100-14

(1) 「。明石人丸山

。大般若經永代講（焼印）

月照寺」

。つる

□□次世」

SX-100-64

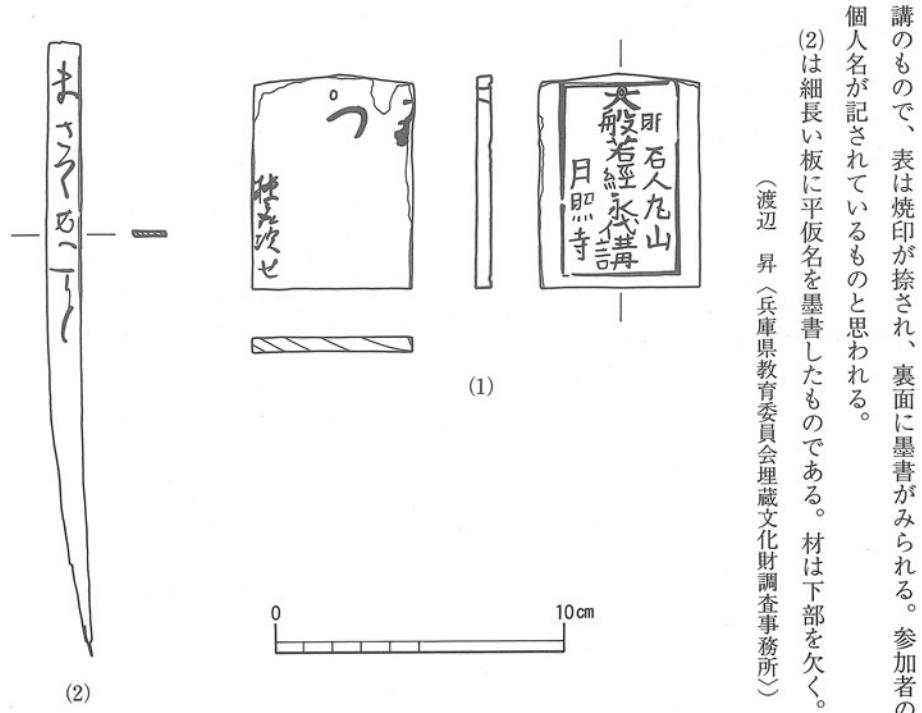
(2) 「おれて□□□

78×58×6 011

(217)×12×2 059

(1)は調査区の北東に所在する月照寺の木札である。大般若經永代

1997年出土の木簡



講のもので、表は焼印が捺され、裏面に墨書がみられる。参加者の個人名が記されているものと思われる。

(2)は細長い板に平仮名を墨書したものである。材は下部を欠く。

(渡辺 昇(兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所))

木簡研究第一八号

永田英正

巻頭言

一九九五年出土の木簡

概要 平城宮跡 平城京跡 左京三条一坊十五坪 平城京跡 興福寺
旧境内 大乘院庭園 藤原宮跡 藤原京跡 飛鳥京跡 長岡宮跡
長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 平安宮内酒殿・釜所・侍従所跡 大坂城
跡 大坂城下町跡 森の宮遺跡 長原遺跡 四天王寺旧境内遺跡
長曾根遺跡 入佐川遺跡 宮内脇遺跡 移布ヶ森遺跡 香住エノ
田遺跡 神戸大学医学部附属病院構内遺跡 大毛池田遺跡 駿府城
三の丸跡 駿府城跡 御所之内遺跡 菊山反射炉 大師東丹保遺跡
甲府城関係遺跡 居村B遺跡 北条小町邸跡 宮町遺跡 南滋賀遺
跡 西河原森ノ内遺跡 屋代遺跡群 大猿田遺跡 山王遺跡 市川
橋遺跡 大日南遺跡 志羅山遺跡 西太郎丸遺跡 磯部カングダ遺跡
横江莊遺跡 加茂遺跡 豊田大塚遺跡 宮町遺跡 五社遺跡 寺町
遺跡 佐渡金山遺跡 佐渡奉行所跡 桂見遺跡 岩吉遺跡 米子城跡
八遺跡 山崎一号遺跡 長登銅山跡 小倉城跡 大宰府条坊跡 吳
服町遺跡 松崎遺跡 下林遺跡IV区 昌明寺遺跡

一九七七年以前出土の木簡(一八)

ノゾゴロド白樺文書

長屋王家木簡三題

算木と古代実務官人

書評 沖森卓也・佐藤信著「上代木簡資料集成」

彙報

価額 五五〇〇円 送料六〇〇円

B・ル・ヤニン
森 鈴木 公章
大隅 景二
清陽